

Club Homepage URL <http://rid2510.org/otarusouth/>

●例会場/ニュー三幸 ●例会日/毎週金曜日12時30分 ●事務局/〒047-0032 小樽市稲穂1-3-6 ☎0134-33-3500



●2014-2015年度RIテーマ
LIGHT up ROTARY
ゲイリーC.K.ホアンRI会長
●第2510地区重点目標
RIテーマ「ロータリーに輝きを」
を推進しよう

55年の歴史の蓄積の上に乗って
ロータリーにさらなる輝きを

●再来週11月28日金のプログラム

◎ガバナー補佐公式訪問 点鐘12:30
RI第2510地区第6グループ 志比川ガバナー補佐(蘭越RC)

●来週11月21日金のプログラム

◎「職場訪問」 点鐘 AM11:30~ 田中酒造亀甲蔵

●今週11月14日金のプログラム

◎国際奉仕委員会担当例会
ロータリーデー「ポリオプラス」総括 点鐘12:30

18

通巻 第2674号
2014年11月14日発行

1960年創立
昭和35年2月5日

●例会プログラム

小樽青少年国際交流会議

於 小樽商科大学 5号館

小樽青少年国際交流会議

地域の若者の国際意識を高めよう

- ◆12:00 受付開始
- ◆12:30 挨拶 岡崎国際奉仕委員長
- ◆12:35 基調講演



私の目から見た そして体で感じた国際交流

山口大学法律科教授 石 龍 潭 氏



皆さん、こんにちは。
山口大学の石と申します。どうぞ、宜しくお願いいたします。
私は1986年に高校を卒業し、中国の東北師範大学に入学しました。4年後の1990年に同大学を卒業し、大連外国語学院に就職しました。
しかし、在職中、自分の知識不足を何度も痛感して、若いうちに少しでも充電しないと、いずれ時代に取り残されるのではないかと危惧しはじめ、日本留学を決意しました。商大と北大で学位をとってから、今現在、山口大学に勤めております。

自分の人生を振り返ってみてみると、小樽という町、そして小樽商大との出会いは、まさに縁というほかはありません。というのは、主観的には、日本に来る前に、日本の地理や大学事情はよく分からなく、小樽市及び商大の名前すら知らなかったからです。また客観的には、商大を紹介してくれた方は、たまたま小樽出身なので、おそらく彼女にとって、大学といえば、小樽商大だということで、商大を紹介してもらったのではないかと思います。

小樽市、そして商大には、私の日本人生の原点と出発点があります。小樽市、商大がなければ、今の自分はなかったと言っても決して過言ではありません。

商大在学中、小樽水産高校のある先生のご紹介で、初めてロータリーの事を知りました。修士2年の1999年に、2回目の挑戦で米山奨学生としての認定を受けることができました。

それまで学費と生活費を稼ぐために、朝4時に起きての新聞配達などのアルバイトをしながら勉強してきた私は、月15万円の奨学金の重さを人の何倍も感じておりました。

奨学期間満了の際、私は謝辞としてこう述べた。「毎月委員長さんや幹事さんから15万円の奨学金を頂きました。私はそれ

を、まず、手ではかって、そして日々の生活の中ではかっていって、最後に心の中ではかってみました。どれもこれもとても重かった。」

自分の人生の中で、一番苦しい時期に救ってくださったロータリークラブの恩は一生忘れません。

私は、これまで山口大学で6期のゼミをもってきました。ゼミ生との接触の中で、学生の国際意識の低さや国際知識の不足を痛感しました。このような状態を打開するため、2度にわたってゼミ生を連れて、中国の大連外大生との国際合同ゼミを開催しました。学生がよく準備してくれたせいか、2回ともとても成功したものでした。

しかし、決して良いことばかりではありません。というのは、いざというとき(交通事故や病気等)に備えての危機管理体制が日本ではなお十分整備されていないからです。これにつき、かつて大学側に確認したことがあります。「基本的には教員の個人行為で、大学として責任を負えません」と。責任の重さと怖さに圧倒され、石ゼミの看板メニューとしていた国際合同ゼミは今休止中です。早いうちに再開できるようお祈りします。

現在、私たちは、グローバル化などによって様々な変化がもたらされる社会の中で生きています。このような社会では、一つの国の中だけでは解決できない問題に取り組む必要が生じています。そのため、いろんな国の人たちを結びつけチームとしてまとめあげることや、そこから新しい知識や技術を生み出すこと、それを世界もしくは地域で活用することができる人材が求められています。山口大学では、こういった人材を育成するために、新しい学部「国際総合科学部」を設置しました。

新学部の特徴として海外留学の義務化が挙げられます。入学者全員に2年生の秋から3年生の夏までの1年間海外留学を経験させ、留学先の文化・歴史等にふれながら、幅広い知識と視野、高いコミュニケーションスキルを身につかせます。

新学部の設置にも象徴されるように、私たちは、自分がグロー

バリゼーションの時代に生きていることを自覚しなければなりません。国際交流に対し常に興味や意欲をもち、困難を恐れず（多少の冒険心も必要かも）、誠心誠意をもって他人に助けをもらいまたその恩義を忘れることなく社会に還元させることを

● 学生の皆さんにアドバイスとしてお送りしたい。

私の話を聞いて、皆さんが今まで以上に国際意識を高めていただければ、幸いです。

● どうもありがとうございました。

◆13:20 分科会

外国から留学生（中国）、商大生（マジプロ）、市内高校生、中学生 55 名が 5 グループに分かれディスカッション。

●メインテーマ = 地域の若者も国際意識を高めよう！

- ディスカッションサブテーマ =
- A 国際交流 ・小樽の国際交流には、何が必要か
 - B 日本の教育 ・日本人の海外留学の現象について考える
 - C 小樽観光 ・観光都市を目指すには運河以外何が必要か

について真剣に意見を交わしました。



詳細につきましては、後日「報告書」を作成いたします。



夜間移動例会
 点鐘午後6時 於ニユー三幸一階麦羊亭

■メーキャップ受付■

●10月31日(金)分

土屋 大乘氏、久末 智章氏、加地 幸広氏、渋谷 繁男氏、星野 昭雄(小樽RC)

●11月7日(金)分

佐藤 慶一氏、久末 智章氏、山根 正人氏、柴田 憲彦氏、星野 昭雄、吉村 克之氏、西條 文雪氏、平松 正人氏(小樽RC)